

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.58

12/1

2017

発行／平成 29 年 12 月 1 日・発行所／日本産業衛生学会東北地方会事務局

住所／〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内)

電話／022-717-7874・FAX／022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人／黒澤 一

第 76 回日本産業衛生学会東北地方会報告

第 76 回日本産業衛生学会東北地方会 学会長

福島県立医科大学医学部 衛生学・予防医学講座 教授

福島哲仁

平成 29 年 7 月 28 日 (金) および、29 日 (土) に、コラッセふくしま (福島市) を会場として、「働き方を見直して快適職場づくり」をメインテーマに第 76 回日本産業衛生学会東北地方会を開催しました。

学会は、7 月 28 日の事業所見学から始まりました。44 名の参加者を迎え、株式会社ヤクルト本社福島工場の見学を行いました。従来の安全衛生管理から一步前進し、快適な職場環境づくりに取り組んでいる様子はとても勉強になりました。産業医の藤原和雄先生には大変お世話になりました。懇親会の前に日本産業衛生学会理事長の川上憲人先生をお迎えして、「理事長と話そう」を開催しました。記念すべき第 1 回を東北の地で開くことができ大変嬉しく思います。約 20 名の出席者により活発な討論が行われ、時間終了が惜しまれました。引き続き開催した懇親会は 31 名が参加し、川上憲人先生、福島県医師会沼崎邦浩先生にも来賓としてご列席いただきました。皆様には福島の日本酒、余興の東北お城巡りクイズなどを楽しんでいただきました。

7 月 29 日の午前は、一般演題の発表を行いました。当初は演題がなかなか集まらず心配していましたが、最終的には 11 演題ご発表いただき、会場では活発な議論が交わされました。午後は福島県立医科大学医療人育成支援センター主任教授の大谷晃司先生による「腰痛に関する最近の話題～職場における問題と対処法」と題した特別講演を行いました。テレビなどでお馴染みの先生のお話を直に聞くことができ、話に引き込まれるようでした。その後は産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会のそれぞれに企画を開催頂きました。産業看護部会では、福島県立医科大学疫学講座主任教授の大平哲也先生に、「笑い与健康」と題してご講演頂き、産業医部会では、今年の 4 月からスタートした社会医学系専門医制度について、日本産業衛生学会担当理事の大久保靖司先生にご講演いただくとともに、若手の産業医の皆様を中心にシンポジウム形式でお話いただきました。最後まで熱心な討論が続き、大変有意義な時間でした。

本学会は、最終的に 111 名の参加者を迎え、盛会裏に終了いたしました。共催頂いた一般社団法人福島県医師会、協賛頂いた公益財団法人福島県労働保健センター、一般社団法人福島県労働基準協会、東北電力株式会社福島支店、後援頂いた福島労働局、独立行政法人労働者健康安全機構福島産業保健総合支援センターにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第 77 回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項（第一報）

学会長： 黒澤 一 東北大学大学院医学系研究科産業医学分野 教授

次年度の第 77 回日本産業衛生学会東北地方会は、宮城県（仙台市）での開催となります。
詳細は、2018 年 5 月発行の「みちのく」にてご案内いたします。

会期：2018 年 7 月 27 日（金）～28 日（土）

会場：東北大学医学部開設百周年記念ホール 星陵オーディトリウム講堂

7 月 27 日（金） 事業所見学、懇親会

7 月 28 日（土） 午前：一般演題

役員会

午後：総会、特別講演、各部会

事務局：東北大学大学院医学系研究科産業医学分野（担当：齋藤）

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

TEL: 022-717-7874, FAX: 022-717-7883

その他の行事予定 東北公衆衛生学会 2018 年 7 月 27 日

東北地方会のホームページができました

このたび、日本産業衛生学会東北地方会の HP を開設いたしました。HP には、「みちのく」も掲載予定です（順次バックナンバーも掲載の予定）。各部会の紹介、連絡事項、東北地方で開催される研修会のご案内など、東北地方会活動の活性化、情報発信の場としてご活用いただきたいと思います。掲載をご希望される場合は、原稿データ（Word 又は PDF）を事務局（sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp）までお送り下さい。会員の皆様からの原稿をお待ちしております。

日本産業衛生学会 東北地方会のホームページへようこそ



HP アドレス：<http://www.doh.med.tohoku.ac.jp/michinoku>

新企画 事業場紹介 #1**大学の産業医として考えること**

東北大学大学院医学系研究科 産業医学分野 講師
大河内 眞也

初めまして。東北大学産業医学分野の大河内眞也と申します。当研究分野は3名の先輩産業医（黒澤一教授、小川浩正准教授、色川俊也准教授）により、2010年に開設された新しい教室です。2014年に私と田畑雅央医師（ともに講師）が加わり5名体制となりました。その他、総勢14名のメンバーで、産業医学講習会などにも取り組んでおります。

産業医5名で東北大学の20を超える事業所の10000名の教職員を担当しています。東北大学が取り組む研究テーマ・教育は多岐にわたり、それらを支える様々な職種の職員がおり、産業医が取り組む業務も複雑です。午前中に超電導の実験をしている研究室の巡視をして、午後は農場の安全衛生について議論して・・・というような具合です。苦労もありますが、教職員の安全衛生、職場快適度を向上させることが、東北大学の業績の底上げとなり、さらに社会に貢献することにつながる、と意気込んで仕事に取り組んでおります。

私どもの教室の特徴として、産業医全員が他分野で臨床医・医学研究者として過ごした後に教室に加わったということがあります。黒澤教授の裁量性・自由度は極力高くという方針の下、各自、以前から取り組んでいるプロジェクトを継続しております。私も、びまん性肺疾患の臨床、基礎研究を続けています。

二足（三足？）のわらじを履くことにより、産業医の活動がおろそかになるのではないかと心配される方もいらっしゃるかもしれませんが、3年余りこのスタイルで仕事をしてきた実感として、産業医の仕事が臨床医学や基礎医学に有機的に結びつく感覚があります。一例として東日本大震災の経験をあげたいと思います。私が担当した患者様の中で、マスク非着用のまま瓦礫処理に従事され、急性肺障害により亡くなられた方がいらっしゃいます。治療より予防が勝る・・・ということを実感した経験でした。現場に5管理の概念があれば、このような死は防ぎ得たかもしれません。予防のためには基礎医学の知識も必要であることは言うまでもありません。

大学での産業医活動が、産業医、臨床医、基礎研究を結びつける役に立てばと考える今日この頃です。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

産業医部会

医療法人健友会 本間病院
菅原 保
福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
各務 竹康

第 21 回産業医協議会開催報告

本年度の産業医協議会は、「東北地方における産業医の育成」として、シンポジウムを開催いたしました。ストレスチェック制度、社会医学系専門医制度など社会的に産業医の需要が増加し、高い専門性が求められる一方で、大企業が少ない東北地方においては、嘱託産業医としての地域の先生方が活動の中心となっております。そのような中、東北地方で産業医として活動されている、菅原保先生、田鎖愛理先生、五十嵐侑先生に、産業医としての学びをテーマにご講演いただきました。それぞれ異なる背景からの、示唆に富んだ内容でした。また、日本産業衛生学会理事で、専門医制度委員会委員である大久保靖司先生より産業衛生学会、専門医制度と実際の嘱託産業医の現場とのつながりについてご講演いただきました。座長が不慣れなため、全体討論の時間が十分ではありませんでしたが、今後の学びの機会について重要な気づきの機会が得られたかと考えております。講演いただいた先生方、参加して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

産業看護部

青森県立保健大学 看護学科
千葉 敦子

産業看護部会員は、全国では 1,700 名程度ですが、東北では 69 名となっており（平成 29 年 2 月末現在）、部会員数の減少傾向が課題です。また、新たな産業保健看護専門家制度への移行が、東北では思うようには進んでいないという課題もあります。新制度では研究の実践が求められることから、部会としても研究に関する支援を強化しているところです。具体的には、学会等でのサポートデスクの設置、研究費の助成等の支援がありますので、部会員の皆様はご活用くださいますようお願いいたします。

東北産業看護部会の活動としては、年 2 回の運営会議、部会報「産業看護とうほく」の発行および年 1 回の研修会であります「産業看護のつどい」を長年継続して開催してまいりました。今年は、福島県立医科大学 医学部疫学講座 主任教授の大平哲也先生に、「笑いを生かした心身の健康づくり」と題してご講演いただき、東北 6 県から 23 名の方にご参加いただきました。会場は笑い声でいっぱい、涙を流しながら笑っている方もいらっしゃいました。日ごろのストレスを発散し、さっぱり、すっきりとして帰途についた方も多かったようです。今後も部会員にとって為になる研修会を企画してまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望をよろしくお願ひします。

産業衛生技術部

河合環境コンサルタント事務所
部会代表
河合 直樹

**化学物質のリスクアセスメントを
どのように進めるか**

本年度の産業技術部会は、6名参加のもと、表題に掲げたテーマに沿って、地元福島県で活躍しておられる労働衛生コンサルタント 中村寿雄(ひさお)氏から事例紹介をいただいたあと、フリートキングで意見交換を行いました。専門的な知識がなくても比較的容易に実施可能なリスクアセスメント(RA)手法(健康面)として、コントロールバンディング法の普及が進んでいるが、多くの場合、安全サイドに判断されるため、結果として、より費用のかかる環境管理を要求する判定になってしまうなどの問題点があること、その問題点を補完するためには、半定量的手法(シミュレーションなど)や定量的アプローチ(個人暴露濃度測定など)も併用すべきであること、さらに、引火爆発など安全面のRAを中小企業に浸透させていくためには、容易に実施可能な手法の開発と労働安全衛生コンサルタントの関与が期待されるなど、活発な意見交換が行われました。高校総体と日程が重なり、宿泊先の確保が難しい中、秋田、岩手から参加していただいた方々に感謝申し上げます。

産業歯科保健部

労働衛生コンサルタント
山形産業保健総合支援センター 相談員
山形県東根市
江場歯科医院 院長
星川 知佳子

平成29年11月5日山形県歯科保健大会において山形県歯科保健功労者表彰された。表彰についてパンフレットに記載されたのは、平成22年より山形県歯科医師会初女性理事として特に事業所健診に力を注ぎ、全身の健康につながる口腔管理の重要性を訴え、その結果、本年全国健康保険協会山形支部と山形県民の歯・口腔の健康づくりを目指した相互連携に関する覚書が山形県歯科医師会と締結等。また、歯科特殊検診にかかわるアンケートなども山形県内で行い、100パーセントの実施率には程遠いことなどをデータ化し、事業所にアンケート結果と必要性の説明を還元した。まだまだ産業保健分野での歯科の理解は高いとは言えない。健康に働くために口腔は栄養摂取の面、糖尿病、心疾患等全身との関わりが重要であることを理解していただけるよう今後これを機に虫の目(現場の実態を把握)、鳥の目(大きな視野で全体を見)、魚の目(時代の流れを把握)で歯科保健活動推進に一層精進していきたいと考えている。

産業看護とうほく

第33号 2017. 11

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会

産業看護部会

連絡先: 〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

青森県立保健大学 看護学科 千葉敦子

発行責任者: 千葉敦子・村越亜弥子

第24回産業看護のつどい ご報告

2017年7月29日(土)に第76回日本産業衛生学会東北地方会が、福島市で開催されました。

今回は「働き方を見直して快適職場づくり」をメインテーマに、一般口演、特別講演が行われ、多数のご参加をいただきました。

産業看護のつどいでは、現在、県内外を問わず講演会で引っ張りだこの福島県立医科大学 医学部疫学講座 主任教授の大平哲也先生に、「笑いを生かした心身の健康づくり」と題してご講演いただき、東北六県から23名の方にご参加いただきました。

ご講演の内容は、大きく分けて次の二つです。

1. 笑いと疾病・健康との関連

笑いの定義として、笑いは「ユーモアに対する身体的反応」であり、「身体動作」と「発声」。つまり声と笑い顔の2つから構成されています。また、笑うと腕、足、体軀など多くの部分の筋肉を使うので健康に大きく関係し、運動量では、1日15分の笑いは約40kcalのエネルギーを消費するとのことでした。

また疫学調査にもとづき、「笑いの頻度と認知機能との関連」、「関節リウマチと落語」、「がん・循環器疾患・アレルギー・糖尿病と笑い」、「普段声を出して笑う頻度別にみた唾液中コルチゾールの変化」など興味深い研究について解説されました。



「笑いヨガ」をご指導いただき、会場は爆笑の渦に

2. 「笑いヨガ」の実技

- ①手拍子「トントタタタンッ」のリズムに、「ホッホッハハハッ」の笑いをつけて、3~4回繰り返した後に万歳をしながら「イエーイッ」と言い、この手拍子から万歳までを笑いヨガのポーズの後に行う。
- ②深呼吸。足を肩幅に開いて、前屈しながらしっかりと息を吐く。吐き切ったら鼻からゆっくり吸い、グーッと身体を伸ばして、そこで止める。1、2、3、そして「ハハハハハハハッ」と笑いながら息を吐く。その他、「ナマステ(挨拶のポーズ)」「アロハ笑い」など。

巻き込まれました。参加者からの感想としては、楽しかった。とてもすっきりした。笑いは行動であり、笑おうと意識することは誰でもできるという言葉が印象に残った。笑いは前向きな感情であり、これまでの健康教育にプラスすることで、メンタルヘルス教育や生活習慣病予防教育の多面的な実践への可能性を感じた等の意見が聞かれました。



各県の産業看護部会活動報告

【青森】

- ・青森県産業保健総合支援センター主催で、「メンタルヘルス事例検討会」「ストレスチェック運用課題検討会」開催。
- ・青森県立保健大学で「産業看護アセスメントツール」の活用に関する研修会開催
講師:東京地下鉄(株)人事部健康支援センター 保健師 村上 京子先生

【秋田】

- ・9月に日本赤十字秋田看護大学の産業看護実習を秋田魁新報社と日本製紙秋田工場で実施した。
秋田大学医学部保健学科の実習も12月に実施予定。
- ・秋田産業保健総合支援センターにて「発達障害傾向のある労働者への配慮と支援」等、研修会開催。

【山形】

- ・第90回日本産業衛生学会(東京)にて、産業保健看護専門家制度の自由集會が行われ、登録者・専門家・上級専門家が40名ほど参加した。東北地方からは、山形の中野あゆみさん含む2名が参加した。

【岩手】

- ・産業看護職の集いを3月に開催。テーマは「産業看護職として長年の経験から伝えたいこと」、「ストレスチェック実施後の状況」。参加者の感動を生む研修となった。
- ・岩手産業保健総合支援センター・日本産業衛生学会産業看護部会共催の研修として、9月「発達障害について～発達障害の特徴と事例を通して関わり方を学ぶ～」開催。

【宮城】

- ・仙台為になる産業保健勉強会の開催。3月第130回例会「ホルムアルデヒド取り扱い作業者の暴露影響指標の検討」、「健康的な職場環境への挑戦」。6月第131回例会「ストレスチェックについて」。
- ・宮城産業保健総合支援センターの研修として、7月「発達障害の基礎知識」について開催。

【福島】

- ・福島産業看護研究会(インテル)は、2か月毎に勉強会継続中(福島市中心に会員14名)。今年度テーマ『新たな視点で健康支援を考える～次のステージへ～』と題し、「ストレスチェックのその後」、「地域・職域連携」、「労働衛生」、「健康教育」について開催。
- ・福島産業看護協議会の産業看護職能力向上講座(前期)として、7月に「大人の発達障害について」開催。

～編集後記～

先日の事です。コイン駐車場に車を停めてすぐに、お財布がない事に気がきました。その後の私の行動は、はっきり言って大失敗。思い出すたび、がっかりしています。気が動転したときほど、まず誰かに相談し、冷静に判断する。これを肝に銘じた出来事でした。(福島県:前田美千代)

会員の異動（平成 29 年 3 月から平成 29 年 11 月）

■ 青森県

新入会 村下 公一
（弘前大学COI研究推進機構）

■ 岩手県

転 入 佐藤 利夫（北海道から）
渡邊 栄子（宮城から）
秋山 直美（京都から）

新入会 池田 浩
（岩手医科大学大学院）

退 会 中村 豊

■ 宮城県

転 入 津野 陽子（東京から）
高梨 一紀（東京から）

新入会 沓澤 千恵
（日本通運株式会社仙台支店）
矢島 健也
（花京院健康管理センター）
藤谷 友希
（セレスティカジャパン株式会社）

退 会 吉田 悦子
及川 すえ子

■ 秋田県

新入会 栗津 力
（由利組合総合病院）

■ 山形県

新入会 富樫 尚子
（花王株式会社酒田工場）

退 会 水元 麻美

■ 福島県

転 入 荒川 真之（東京から）
新入会 小野 晃

（古河電池株式会社）

刀根 彩香

（古河電池株式会社）

穂積 由紀江

（白河オリンパス株式会社）

宍戸 裕実

（福島キャノン株式会社）

尾形 美貴子

（株式会社アトックス福島復興支社）

小室 安宏

（福島大学保健管理センター）

【編集後記】

今回は、ほぼ予定通りの日程で「みちのく」を発行することができました。原稿をお願いいたしました皆様のご協力に感謝申し上げます。

今回から、新企画として、東北地方会会員の事業場を紹介するコーナーを新設いたしました。第1回目は、現在、地方会事務局を担当しております、私共の教室を紹介させていただきました。次号以降、「是非、私の事業場を紹介したい！」という方がおられましたら事務局までお知らせください。特に、立候補がない場合には、各県持ち回りをお願いしていく予定です。

また、本文紙面でもご紹介しましたように、東北地方会のHPを作成いたしました。各部会の頁もありますので、会員相互の情報交換の場としてご活用いただきたいと思います。HPに掲載を希望される方は事務局までご連絡ください。尚、今回、発刊の「みちのく」からHPでの掲載を予定しております。これに伴いまして、これまで、「みちのく」を送付しておりました、非会員団体様等には、今号を持ちまして送付を終了させていただきますので、ご了承ください。今後は、HPの方に掲載されます「みちのく」をご覧ください。

寒さ厳しい折、年末年始を控え、皆様、益々ご多忙になることと存じますが、くれぐれもご自愛ください。(T.I)